



耳に残る爆音

順天高等学校 2年 柴田 藍

私は不発弾が爆発した音を帰国して数日たつ今でも忘れられない。それは不発弾処理現場で体験した、最も危険な子爆弾のボンビーの爆音だ。私たちは爆弾が埋まっている場所から200メートルほど離され「これでは草や木で何も見えない」と思っていた私に、数秒後衝撃がはしる。今まで聞いたこともないような空気を劈く爆音と地面から感じる振動。思わず手に持っていたカメラを落としそうになった。

ラオスはベトナム戦争（1964年～73年）の9年間で8分に1回の爆撃を受け580,344回の空爆にあった。当時のラオス人口、ひとり当たり1トンの爆弾を投下されたことになる。

終戦後の今でも約8,000万個のボンビーがラオスのどこかに埋まっている。テニスボールのような形から、子供が危険なものだとわからず被害にあうケースが多い。子供だけでなく農作業をしている大人も同じだ。「自分の土地には不発弾があるかもしれない。それはとても危険だ。」と知っていながらも、農作業をしないと生きてはいけない。現在でも被害は年間50人ほどになる。ベトナム戦争直後の数と比べると随分と減ったが、決して少なくはない数だ。被害者は亡くなるか、障害を負ってしまう。

この国に私ができることはあるのか。ラオス研修を終え帰国した今、改めて自分が受賞したエッセイを読み返す。エッセイを書いたときより、障がい者スポーツの必要性をより一層感じた。